

インドネシアの高等教育における日本語教育現状と問題

Wawan Danasasmita / UPI

1. インドネシアの高等教育における日本語教育の主な歴史

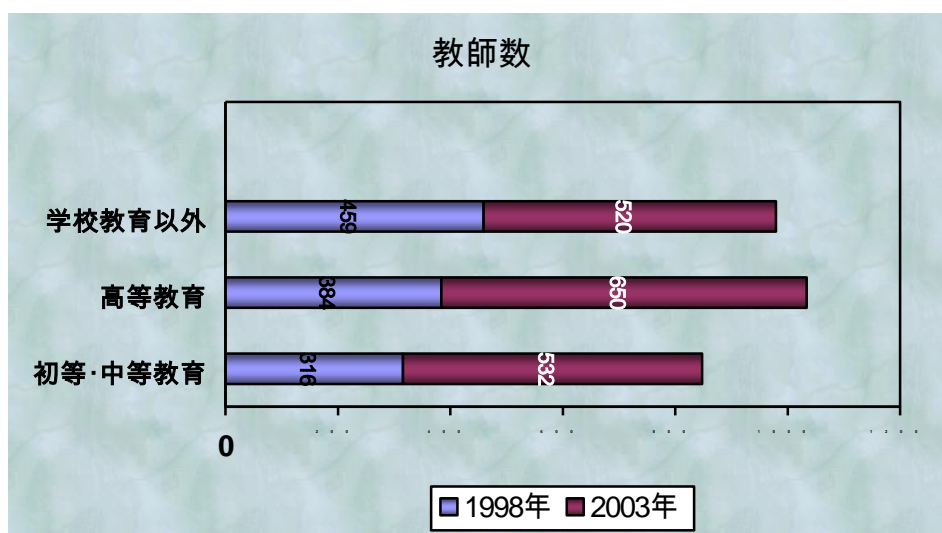
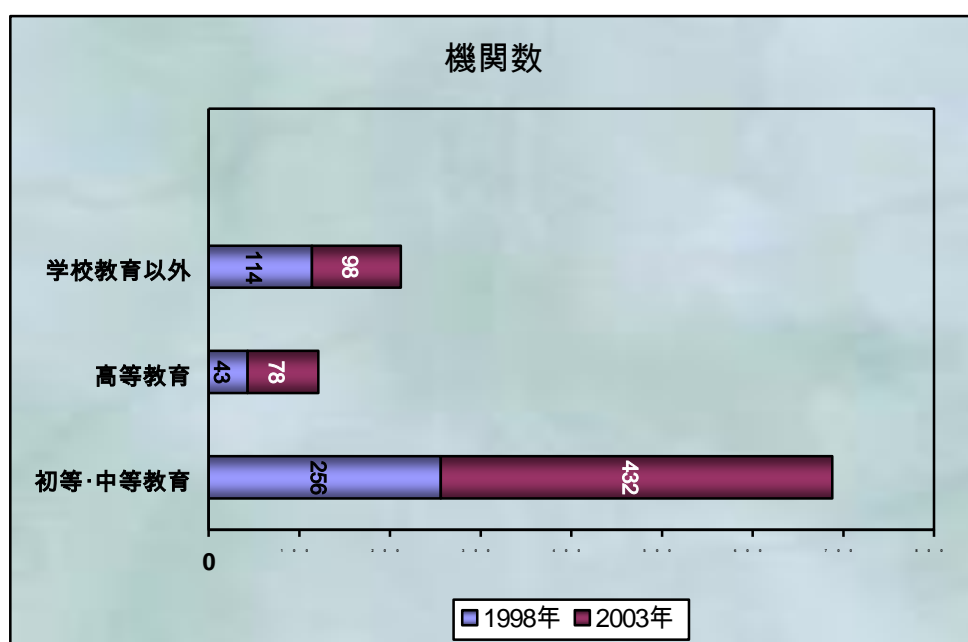
インドネシアにおける日本語教育は長い歴史を持っている。インドネシアの高等教育における日本語教育の歴史は大きく区分すると、1960年代の主要国立大学で日本語教学科が開講した「創成期」、地方、私立大学へと拡大していった1980年代の「発展期Ⅰ」、そして大学院レベルに広がっていった1990年代の「発展期Ⅱ」のピリオドに分けられる。(松本 2006)。

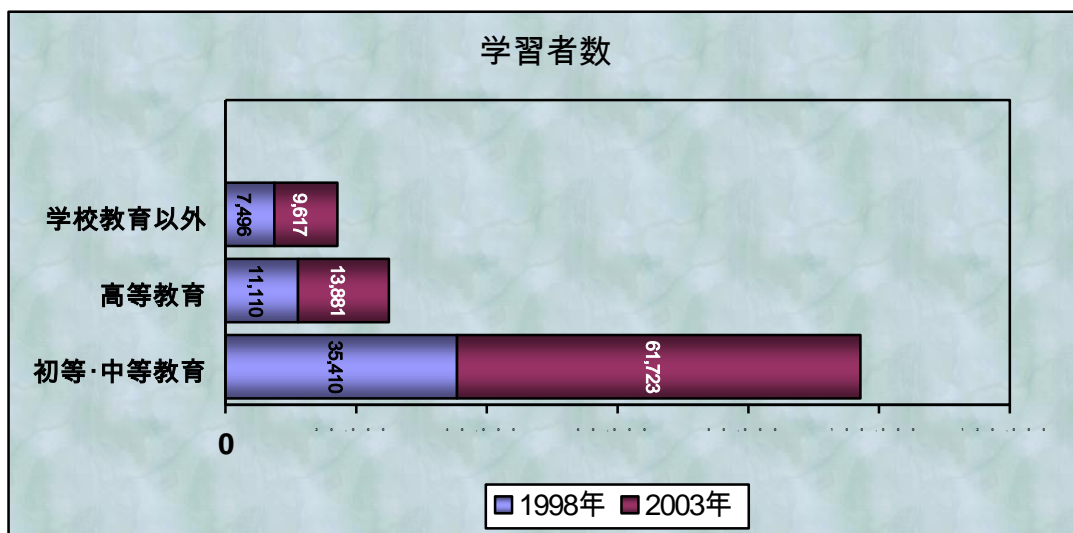
1960年代：創成期 (主要国立大学で日本語学科が開講)	1962年：大学での日本語教育が正式に認める可される。
	1963年：パジャジャラン大学に日本語日本文学科が開講。
	1964年：マナド教育大学（現マナド国立大学）日本語教育学科が開講。
	1965年：バンドン教育大学（現インドネシア教育大学）に日本語教育学科が開講。
	1966年：インドネシア大学に日本研究学科が開講。
1980年代：発展期Ⅰ (地方、私立へ拡大)	1980年：北スマトラ大学で文学部に日本語学科は開講。
	1981年：スラバヤ教育大学（現スラバヤ国立大学）で日本語教育学科が開講。
	1982年：私立ナショナル大学に日本語学科が開講。
	1986年：私立ダルマ・プルサダ大学に日本語教育学科が開
	1989年：ガジャマダ大学に日本語・日本文学科が開講。
1990年代：発展期Ⅱ (大学院レベルへの拡大とネットワークの広がり)	1989年：インドネシア大学で日本研究の修士課程が開講。
	1994年：インドネシア大学で日本研究の博士課程が開講。
	1999年：インドネシア日本語教育学会設位
	2000年：国際交流基金専門家の地域支援開始
	2001年：インドネシア教育大学（旧バンドン教育大学）で日本語教育研究の修士課程は開講。

2. インドネシアにおける日本語教育の概況

a. 基本情報 (学習者数 機関数 教師数)

インドネシアでは日本語に対する関心が高まっている。日本語教育は中等教育と高等教育のほかに学校教育外で行われている。日本語の学習者数が増えるために機関数と日本語の教師数も増えてくる。国際交流基金2003年インドネシアの調査結果は以下の通りである。学校教育以外の機関数を除けば、全ての項目が5年前の調査より増えていることが明らかである。(国際交流基金発行 2004)

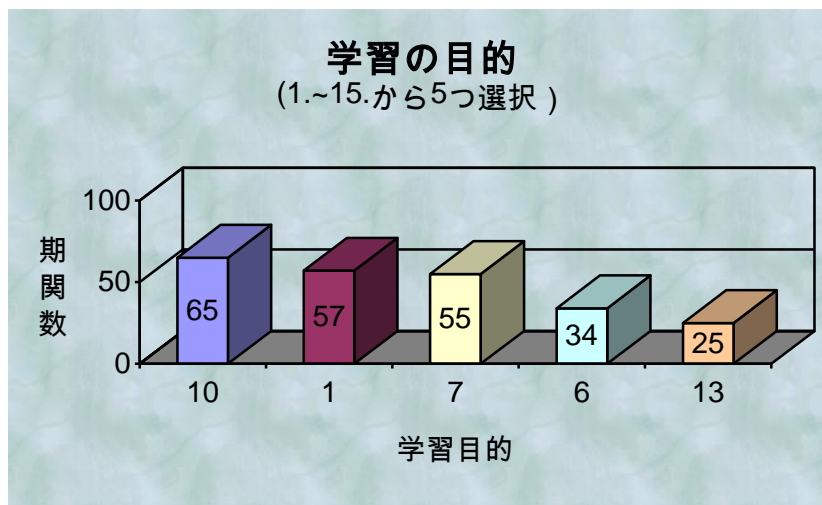




b. 学習の目的

インドネシアにおける日本語学習目的はさまざまである。しかし、一般的には日本語によるコミュニケーションができるようにするため、将来の就職のため、日本語という言語そのものへの興味があるためである。最近大きい町ではJ-POP、J-ROCK、日本のドラマあるいは日本のアニメに好きな人が多くなり、またJ-リーグが有名なため日本のサッカー選手をよりしるために日本語教育に対する関心を持つ者も少なくない。2003年に国際交流基金が行われた機関調査においては、インドネシアの日本語学習者の日本語学習の目的は以下の通りである。

- | | |
|---------------------------|-----------------------------------|
| 1. 日本の文化に関する知識をえるため | 9. 日本との親善・交流を図るため
(短期訪日や日本人受入) |
| 2. 日本の政治・経済・社会に関する知識をえるため | 10. 日本語によるコミュニケーションが出来るようにするため |
| 3. 日本の科学技術に関する知識をえるため | 11. 母語、または親の母語(継承語)である日本語を忘れないため |
| 4. 大学や資格試験の受験基準のため | 12. 日本語という言語そのものへの興味 |
| 5. 日本に留学するため | 13. 国際理解・異文化交流の一環として |
| 6. 今の仕事で日本語を必要とするため | 14. 父母の期待に答えるため |
| 7. 将来の就職のため | 15. その他 |
| 8. 日本に観光旅行するため | |



c. 日本語教育上の問題点

インドネシアは日本語学習者数が世界で第6位、アセアン地域では第6位といわれているが、日本語教育上の問題で台湾、香港、韓国と比べれば、日本語の能力がまだ低い。原因はたくさんあるが、まず、学習者数と教員数がアンバランスのこと、日本語がマスターする教員がまだ少ないこと、日本人と日本語で話す機会が少ないことがよく聞こえてくる。国際交流金2003年の機関調査結果では、インドネシアにおける日本語教育上の問題については具体的に次のようである。

順位	問題点
1	施設、設備が充実していない
2	適切な教材が不足している
3	教師の日本語教授法が十分でない
4	日本語の教材・教授法に関する情報が不足している
5	教師の数が不足している
6	教師の日本語能力が十分でない
7	日本の文化や社会に関する情報が不足している
8	学習者が減少している
9	その他
10	教師の待遇がよくない
11	学習者が日本語学習に関心でない

(松本,2006:58)

3. インドネシア教育大学 (UPI) での事例

インドネシア教育大学 (UPI) では1965年に日本語学科が開講していた。1985年に日本語教育プログラムに変わって、外国語教育学科の一部になってきた。インドネシア教育大学外国語学科には日本語教育プログラムのほかにドイツ語教育プログラム、アラビア語教育プログラムとフランス語教育プログラムがある。1999年に日本語教育研究の修士課程が開講していた。インドネシア教育大の日本語の学習者は毎年どんどん増えて、特に1970年代から急速に増加している。だが、学習者数が増加するにしたがってたくさん問題がおきてくる。その問題は目標、カリキュラム、教材/教科書、学習者、教員など関係があると思う。次は、インドネシア教育大学における日本語教育学習の目標について述べてみよう。

a. 日本語教育学習の目標とその特徴

インドネシア教育大学 (UPI) はインドネシアにある一つの教員養成大学として主な目標は教員を養成することである。

UPI の日本語教育プログラムには学士過程と修士課程があるが、それぞれ目標は異なっている。

学士課程の目標は主に学習者が高等学校の日本語教員になることである。それから、学習者が日本語の知識と日本語運用能力を身につけて日本語教育と関係がある就職ができる。その目標を達成するために学習者は、

(1) 日本語能力が日本語能力試験の二級レベルを身につけること (2) 日本の文化、日本文学、日本語学を知ること、(3) 日本語の教授法を見につけること、それから、(4) **entrepreneur** 知識を身につけること。

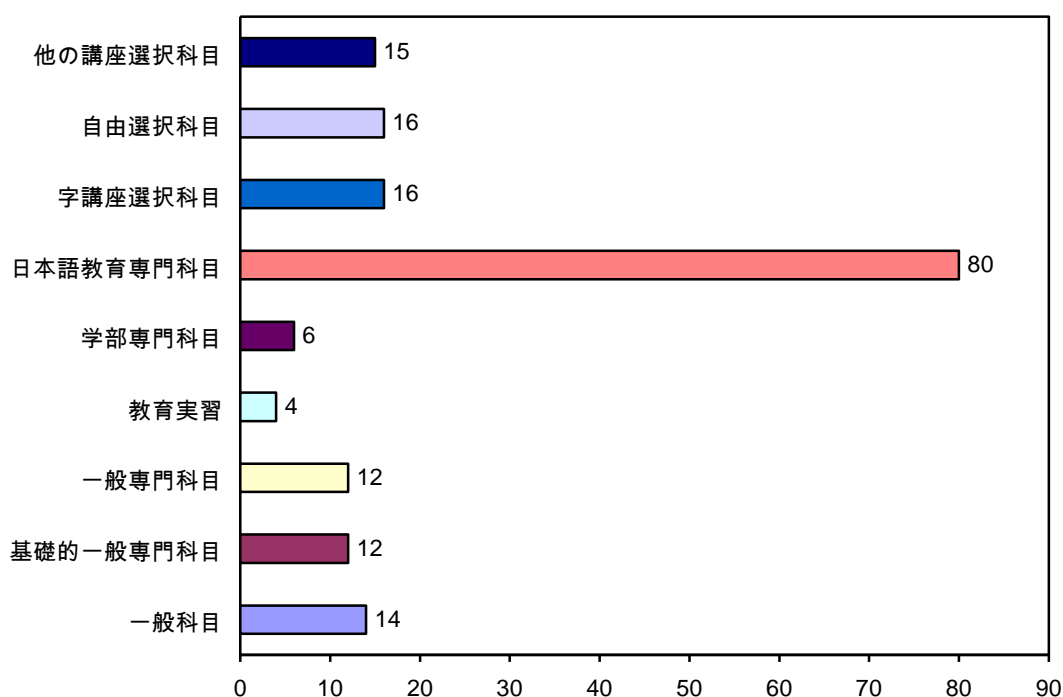
日本語教育研究の修士課程は学習者が高等教育機関で日本語教員になることを主に目標している。その目標を達成するために学習者は

b. カリキュラム

(1) 学士過程のカリキュラム

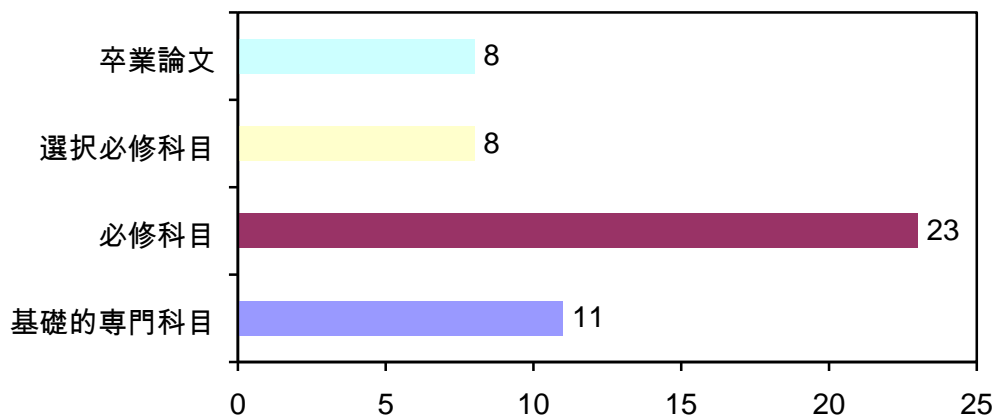
UPI の日本語教育プログラムの学士過程は4年制度で4学期に分かれている。卒業するまで学習者は148単位を取得するべきである。148

他にのうち、日本語教育専門科目は80単位で37科目である。ほかの14単位は一般科目で7科目で、12単位はMKDPで5科目で、12単位はMKKPで5科目で、4単位は教育実習で、6単位はMKK-Fakで、2科目である。それから、日本語教育プログラムの学生は16単位ほかのプログラムまたは学科の科目を習得することができる。他の学科の科目を取らない場合は自講座選択科目を習得する。



(2) 修士課程のカリキュラム

修士課程のカリキュラムは2年制度で以下の通りになっている。学習者は卒業するまで卒業論文を含めて50単位の授業を習得するべきである。50単位のうち、11単位は基礎的専門科目で、4科目であり、23単位は必修科目科目で、9科目であり、8単位は選択科目で5科目であり、そして8単位は卒業論文である。それから、学習者は自分の研究のために必要な科目を他の学科の科目を8単位を修得することができる。



c. 教材/ 教具と施設

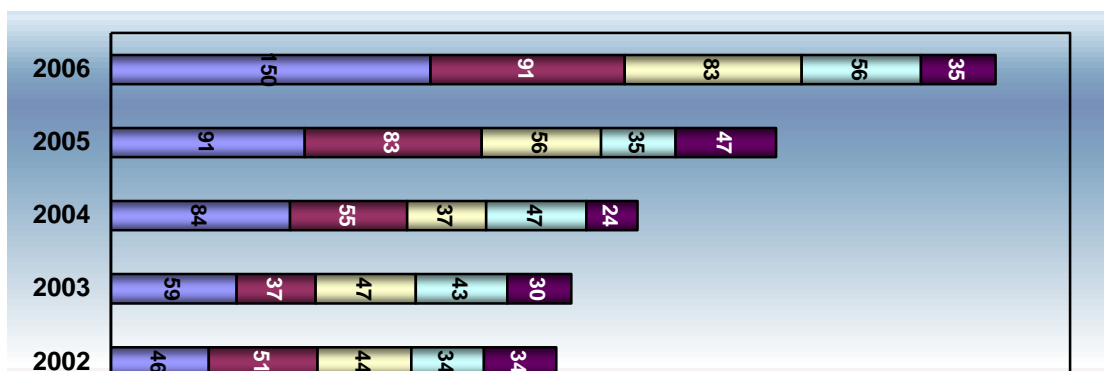
- 日本語教科書は主に日本の出版の教科書を使用している。
- 言語学、文学と日本事情のテキストは日本人が書いた参考書の他に教師が作ったテキストを使っている。
- 初級レベルで教えるためには絵教材やカセットテープやビデオ教材を使用している。
- コンピュータまたはインターネットはUPI コンピューターセンターがある。
- マルチメディアの使用はまだ進んでいない状態である。

d. 学習者

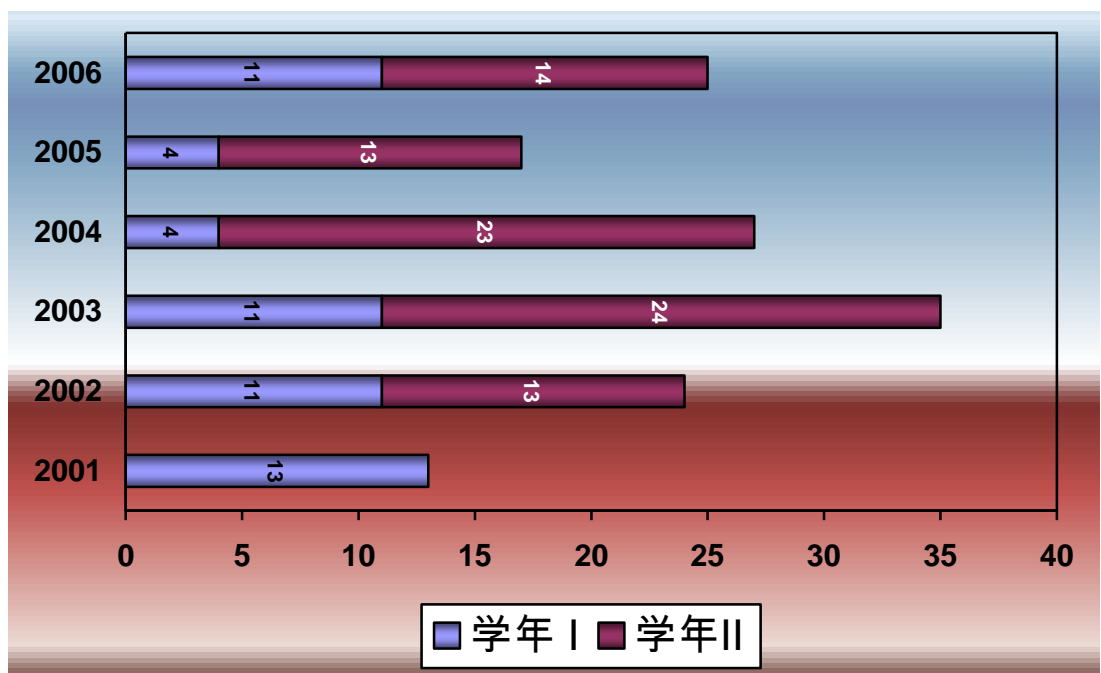
インドネシア教育大学文芸教育学部日本語教育プログラムでは日本語の授業をゼロかやりはめている。それで、新入生は中等教育レベル（普通高校と専門高校）の卒業生を受け入れる。

新入生の募集の仕方は二つの方法でやっている。ナショナル入学試験を通して学習者を受け入れる方法と日本語の才能と能力がある学習者を選んで特別な方法がある。ナショナル入学試験には日本語科目が入っていない。

日本語教育プログラムの学習者は5年間の間に以下の通りである。



インドネシア教育大学大学院日本語教育プログラムの学生は高等教育の日本語学科または日本語教育プログラムの卒業生である。学習者数の状況は以下の通りである。



e. 教師

インドネシア教育大学日本語教育プログラムの教員は16人で、そのうち、国際交流基金の地域派遣専門家と日本人のボランティアの日本語ネイティブが2人いる。

UPIの日本語の教師の専攻はほとんど日本語教育専攻をしている。日
本学、文学は少ない状態である。

なお大学院の場合では、UPIの教師のほかによその大学からの教師
がいる。

f. UPIの日本語教育プログラムの問題

上記の状況に基づいて次はインドネシア教育大学日本語教育プログラム
で起こっている問題を次の通り述べてみる。

1. 目標について

UPIの日本語教育プログラムの卒業生が教育以外の仕事をす
る者が多い

2. カリキュラムについて

- 日本語の授業の科目のほかに科目の種類が多い
- 学習者や社会のニーズと実際の到達レベルにずれがある。

3. 教材について

- 初級レベルの続きの教科書を決めるのがむずかしい
- 日本で出版された教科書にたよりすぎる。
- 高くて探すのが難しい
- 学習者のニーズにあう教科書を作る動力が低い

4. 学習者について

- 学習者が多いため1クラスで学生数が40－50を超える
- 学生の日本語学習に対するモチベーションが低い
- 新入生のバックラウンドが違うためにクラスで日本語能力の
差がかなり大きい
- 学生が日本人、日本文化、日本語に接触する機会が少ない

5. 教師について

- 教師と学生の比率のバランスがない
- 教師の日本語能力が十分でない
- 教師の日本語教育能力が十分でない
- 教師の研究能力が十分でない
- 教師の研究や勉強をする機械が十分でない

* 施設・設備について

- 設備が量的、質的に十分でない
- テープレコーダー、ビデオ、プロジェクターを活用しない

4. おわりに

インドネシアの高等教育における日本語教育の問題に基づいて次のようなくつかの提案を述べてみたいと思う。

- カリキュラムの問題について解決するには大学と大学のネットワークを作る必要がある。
- 教材の問題について解決するには大学と大学または個人と個人との協同研究や教科書作成を行うこと。
- 学習者の問題について特に日本語の能力や日本語学習に対するモチベーション、学生が日本人、日本文化、日本語に接触する機会が少ない問題を解決するには日本の大学とインドネシアの大学のコネクトで交換留学生のプログラムができるのがよい。